

お前の

せいぐ

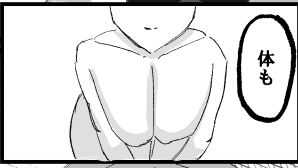
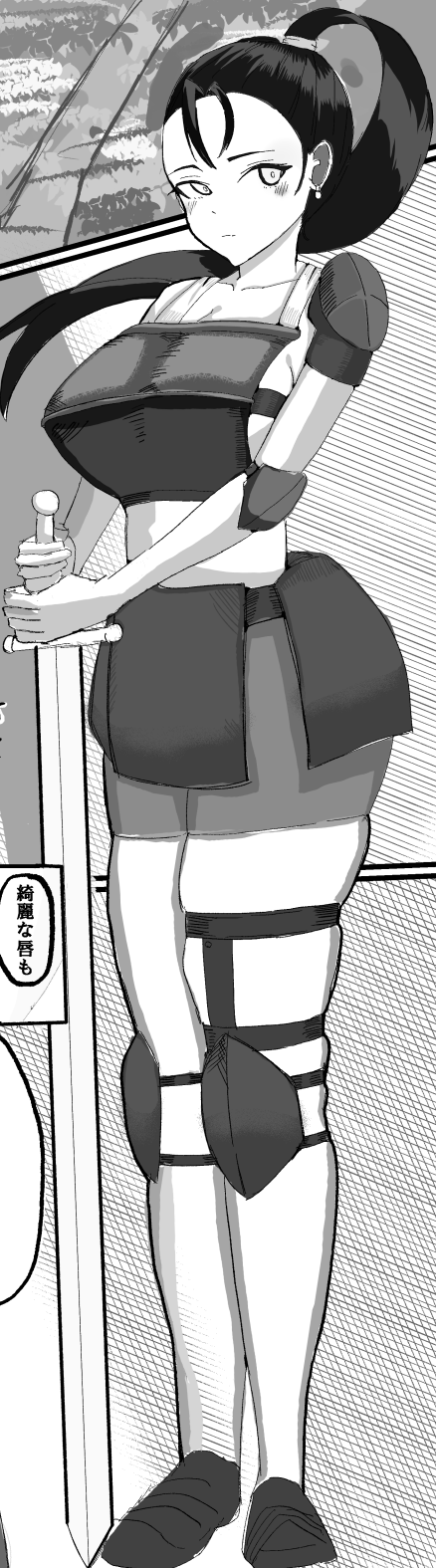
ゴブリンの
討伐依頼にて

そろそろ目的地だ

はい！

先輩、いいよなあ。

先輩大好き



体も

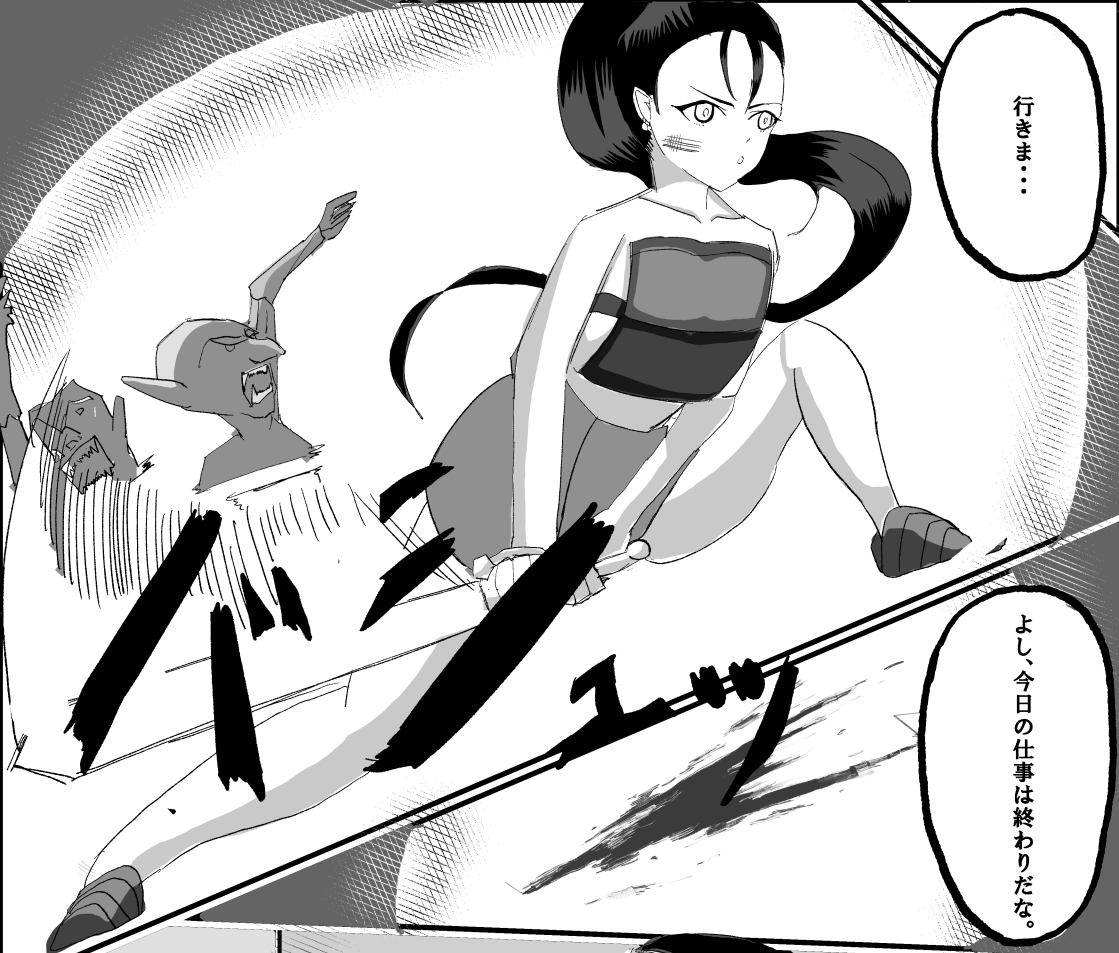


綺麗な唇も

どうやったら
付き合ってもらえるのだろうか

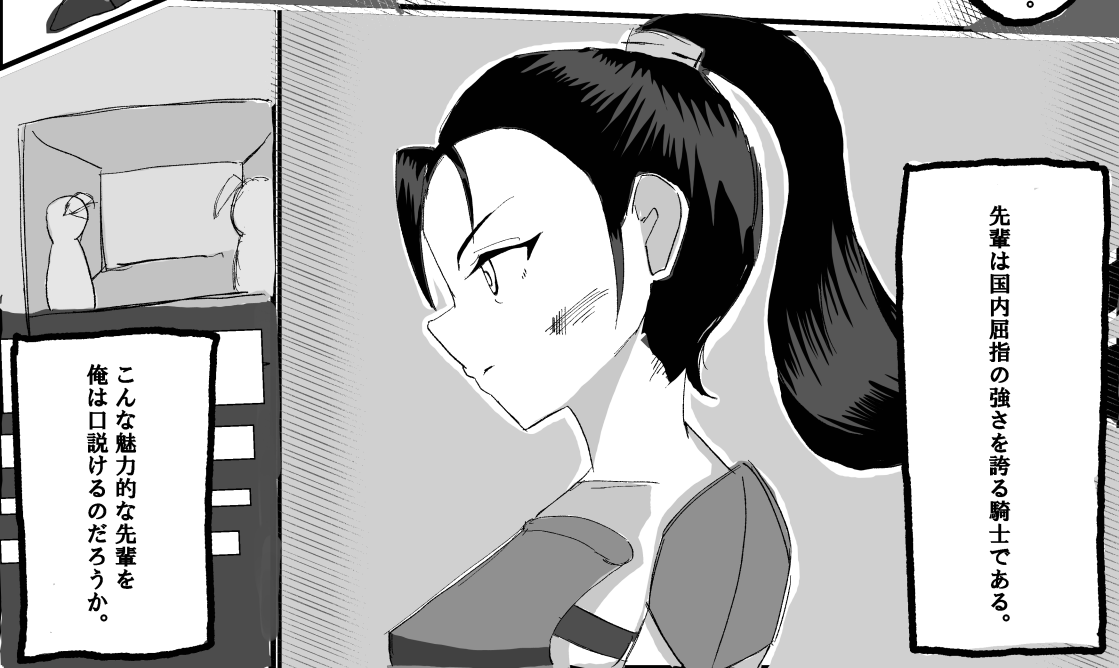
出たぞ！！





行きま…

よし、今日の仕事は終わりだな。



先輩は国内屈指の強さを誇る騎士である。

こんな魅力的な先輩を
俺は口説けるのだろうか。

落ち着け…、落ち着け…。

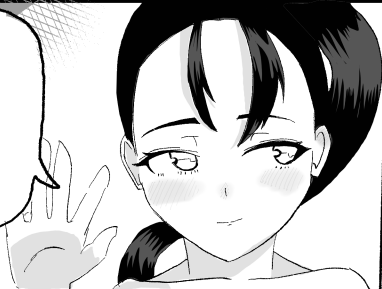
私はあいつが好きだ。

いや、落ち着け！

力は強いわけでもない、
見た目が好みというわけでもない
ただ…

私がコイツが好きだとしても、
こんな男が私のことを…、
好いてくれるはずがない…。

ああ、また明日な。



私はこんなにも強いのに。



じゃ、また明日です！

心の弱さで持てずにいる。

周りの人の評価だけで
等身大の私の評価を、

私はどのように
発散すればいいのだろうか。

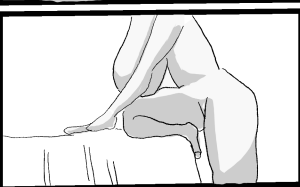


なら、
この収まりきらない恋心を、





だから、
こんな下品な方法で…。



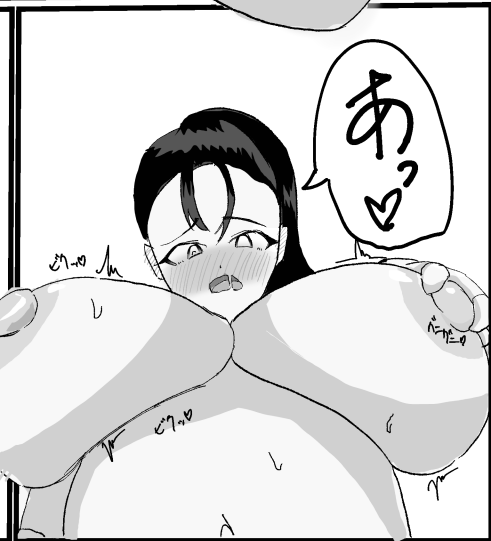
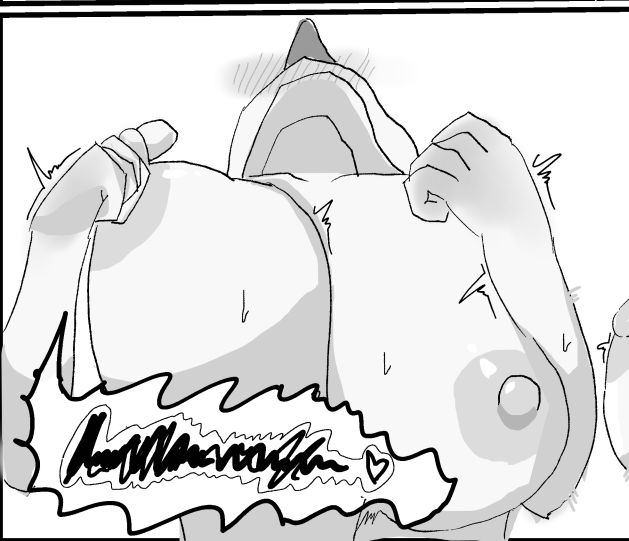
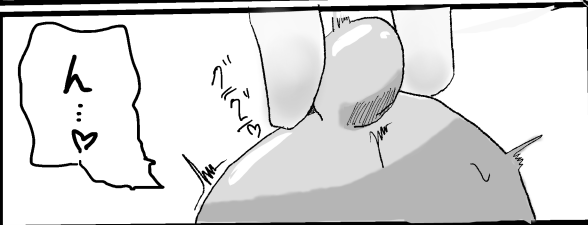
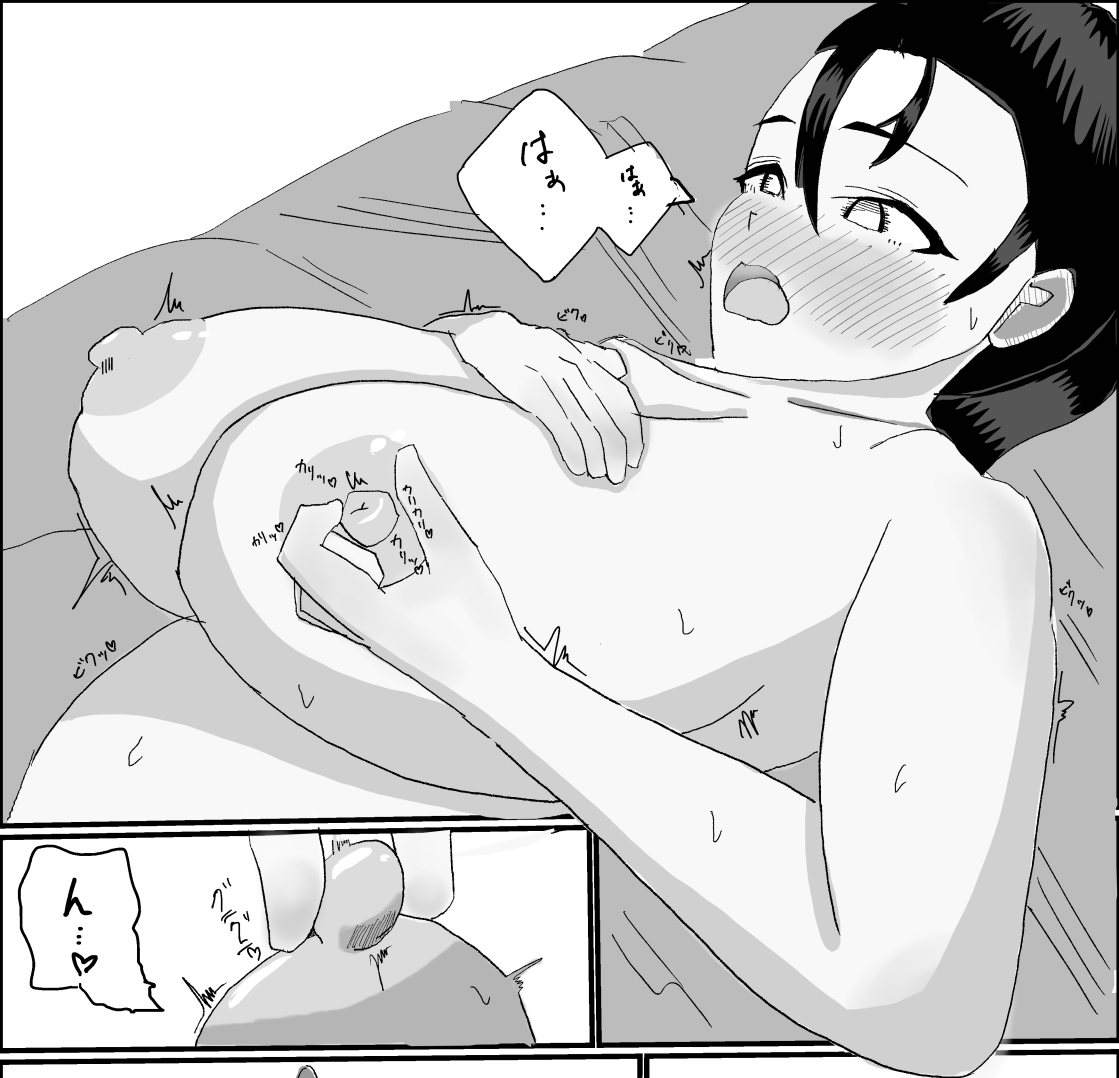
後輩のか…



発散できないのだぞ…！



こんな下品な方法でしか、





あゝ

イッ

イッ